

学校規模適正化及び適正配置に関する基本方針（案）のパブリックコメントの実施結果について

加古川市立小学校・中学校の学校規模適正化及び適正配置に関する基本方針（案）について、パブリックコメントを実施しました。

お寄せいただいたご意見の概要については、下記のとおりです。

記

1 意見募集期間

令和元年6月18日（火）から令和元年7月17日（水）まで

2 意見募集資料の配架場所

市役所市民ロビー（新館1階）、教育総務課（新館8階）、各市民センター、東加古川市民総合サービスプラザ、各公民館、中央図書館、加古川図書館、総合文化センター、ウェルネスパーク、海洋文化センター、市ホームページ

3 応募方法

教育総務課へ持参、郵送、ファクス、電子メール又は各施設に設置した意見箱に投函

4 意見募集の結果

(1) 意見提出人数 40人

【内訳】	①持参	11人	②ファクス	4人
	③電子メール	8人	④各市民センター	6人
	⑤東加古川市民総合サービスプラザ	2人	⑥各公民館	6人
	⑦中央図書館	1人	⑧ウェルネスパーク	2人

(2) 意見項目総数 66件

【内訳】	①基本方針全体に関する意見	2件
	②加古川市の人口及び小・中学校の学校規模の状況に関する意見	7件
	③学校の規模適正化・適正配置の必要性に関する意見	9件
	④適正な学校規模と適正配置に関する意見	13件
	⑤規模適正化の手法に関する意見	11件
	⑥今後の進め方に関する意見	4件
	⑦資料1 これまでの主な意見等に関する意見	12件
	⑧その他	8件

「加古川市立小学校・中学校の学校規模適正化及び適正配置に関する基本方針(案)」
のパブリックコメントの実施結果について

No.	項目	ページ	ご意見等の概要	教育委員会等の考え方
	はじめに			
1		1	子どもたちのためのよりよい教育環境を市が真剣に考える事は大変いいことだと思います。学級規模だけが教育環境ではないと思います。この機会に加古川の子どもたちにどんなことがよりよい教育環境になるか市民が考えることになると思います。	子どもたちのよりよい教育環境について、今後も市民の皆様のご意見もお聞きしながら、検討を進めていきたいと考えています。
2		1	①位置づけについて：地域とともにある学校づくり協議会において、「今後の教育のあり方について『協議し』」、「地域とともにある学校づくりに向けての『意見』をいただいたとあることからして、また、モデルプランの提示等、単なる懇談、意見交換に留まっていないことから、附属機関として位置付けるべきではない（なかった）のか。 ②協議の範囲について：協議の範囲は i 全小中学校なのか、ii 資料1に掲げるいわゆる小規模校のみなのか、教示願いたい。いずれにしても報告書の全体をHPで開示すべきではないのか。	①地域とともにある学校づくり協議会は学識経験者等からご意見を聴取し、市行政に反映させることを目的として設置した任意の委員会として位置付けています。モデルプランについても1案に絞って答申いただいたわけではなく、考える複数案が例示されたもので、今後、それぞれの地域とともに各地区の規模適正化策を検討する上での参考意見として取り扱っていく予定です。 ②協議の範囲については全小中学校です。なお、意見をまとめた報告書については、答申書ではなく参考意見として取り扱うため、ホームページへの公開は控えさせていただきます。
1	加古川市の人口及び小・中学校の学校規模の状況			
3	(2) 児童生徒数・学級数の推移	2～4	○加古川市の人口及び小・中学校規模の状況についてです。現在の小校4年生までの学級定員が35人、小学5・6年生から中学3年生までが40人では、確かにそうなると思うのですが、学級の児童・生徒数が一番問題だと思います。適正な学級定員は、世界のOECDの加盟国では20人から25人になっています。学級数が増え、国が言う適正な学校規模に該当する学校も多くなるかと思えます。そこを飛ばして、現在から将来的な学級数だけを問題にするのはどうなのでしょう。十分学習指導の効果を上げ、生徒指導面で課題のある子どもや、不登校傾向の子どもの対処をしたり、いろいろな保護者対応をしたりするにはやはり、30人くらいまでの児童・生徒数ではないと難しいと思います。	学級定員については、国の学級編成基準、兵庫県の方針に基づいて実施していますので、ご理解くださいますようお願いいたします。 なお、定員改善を求める意見は、本市に限らず、各市町から県を通じて国に要望しており、今後も継続して要望していきます。

No.	項目	ページ	ご意見等の概要	教育委員会等の考え方
4	(2) 児童生徒数・学級数の推移	2~4	大規模校の解消がまず先では。35人学級から30人学級にすぐにでも実施すべき。5年生以上も35人学級にすぐにしてほしい。30人学級になれば、教師も子どももゆったりできる。教育にお金をかけない今の現実を見直してほしい。小規模校の問題は、深刻ではあるが、人口減少ストップさせる市政をお願いしたい。志方町、平荘町等、自然豊かな地域を発展させる手立てを、市長がもっと示してください。統合については、地域の方々の意見を尊重してください。	学級定員については、国の学級編成基準、兵庫県の方針に基づいて実施していますので、ご理解くださいますようお願いいたします。 なお、定員改善を求める意見は、本市に限らず、各市町から県を通じて国に要望しており、今後も継続して要望していきます。 また、市街化調整区域の特に人口減少・高齢化率の高い北部地域において、地域課題解決のため、地域の皆様が主体となり田園まちづくり計画を策定し、Uターン者も含め、集落に通算して10年以上居住する地縁者や市外に居住する新規居住者などの建築物を許可可能とする特別指定区域が指定できるようになるなど、田園まちづくり制度を活用いただいているところです。 子育て世代も暮らしやすいまちづくりについては、こども医療費の無償化や産前産後家事ヘルパーをはじめ、様々な取組を進めています。また、市の北部地域においては、豊かな自然環境を生かした観光資源のさらなる活用や、交通不便地域への対策に向けた検討を進めているところです。
5		2	「適正規模」が子どもたちにとっての適正規模であってほしい。まずは、少人数学級を実現した上で、学級数について語るべきだと思います。	学級定員については、国の学級編成基準、兵庫県の方針に基づいて実施していますので、ご理解くださいますようお願いいたします。 なお、定員改善を求める意見は、本市に限らず、各市町から県を通じて国に要望しており、今後も継続して要望していきます。
6		2	まずは35人学級30人学級にすべきでは。そうすることによって、学校規模も変わる。学校の存在はそれぞれ地域の核になるので、なくすべきではない。	学級定員については、国の学級編成基準、兵庫県の方針に基づいて実施していますので、ご理解くださいますようお願いいたします。 なお、定員改善を求める意見は、本市に限らず、各市町から県を通じて国に要望しており、今後も継続して要望していきます。 また、学校は地域コミュニティの核として地域とも深いつながりを持ちながら大きな役割を果たしていることから、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。
7		2	40人学級を前提とした学級数で「適正規模」を言うのは、これからも少人数学級にする予定がないというのをおかしいと思う。誰にとっての「適正規模」なのでしょうか。集団が大きいと社会性が養われるのでしょうか。まずは一人一人を大切に、「個」がしっかりすることから始めるのが必要な気がします。	学級定員については、国の学級編成基準、兵庫県の方針に基づいて実施していますので、ご理解くださいますようお願いいたします。 なお、定員改善を求める意見は、本市に限らず、各市町から県を通じて国に要望しており、今後も継続して要望していきます。

No.	項目	ページ	ご意見等の概要	教育委員会等の考え方
8	(2) 児童生徒数・学級数の推移	3~4	規模別の分類の資料が「旧文部省資料」で昭和59年です。30数年も前の資料しかないのでしょうか。学級の定員はこの間、変わっていないのでしょうか。令和元年の資料は1学級何人で行っているのでしょうか。令和7年の推計は今の1年~4年35人、5年6年40人で推計しているのだとすれば、今、他県では30人学級が実現していると聞いたことがあります。兵庫県内本市も定員数を少なくすれば、小規模校も1学年複数学級になるのではないのでしょうか。大規模校は、分かれる措置も必要になるのではないのでしょうか。	国の学級編成基準については、昭和55年度より現在の40人とされています。また、学級定員については、国の学級編成基準、兵庫県の方針に基づいて実施していますので、ご理解くださいようお願いいたします。なお、定員改善を求める意見は、本市に限らず、各市町から県を通じて国に要望しており、今後も継続して要望していきます。
9		3~4	小学校・中学校の大規模校、小規模校も児童生徒人数は、7年後でもそれほど大きく減っている様に思えない。ならば、大規模校に在籍している児童生徒に対する教育環境を早急に改善する方が、「子どもたちの教育環境のあり方」としては望ましいと考えます。	学校規模の適正化については、今後の児童生徒数の推移や、学校規模に起因する教育課題等を把握し、引き続きそれぞれの状況に応じた検討を行ってまいります。アンケート調査結果や「地域とともにある学校づくり協議会」の意見を踏まえ、とりわけ今後10年以内に1学年1学級となることが見込まれる小規模校について速やかに検討を進めていきたいと考えています。
2 学校の規模適正化・適正配置の必要性				
10	2 学校の規模適正化・適正配置の必要性 3 適正な学校規模と適正配置 4 規模適正化の手法	5~11	1学年1学級でも、工夫次第でデメリットをカバーできると思います。徒歩で通学することは、この時期（小学生）の子どもたちにとって、いろいろな意味で大切なことだと思います。バスでの通学によって、地域の住民との関わりも減る。小規模学校ならではの、ユニークな教育で、逆に子どもが増えるような政策のアイデアをみんなで考えるように。教育にこそ、未来を見据えて税金を使ってほしい。	徒歩での通学は、心身の育成、地域住民の方々との関わりなどの面で、子どもたちにとって重要な要素であると認識しています。今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。
11	(2) 小規模校や大規模校の教育活動の特徴	5~6	大規模校のデメリットとして、子ども一人一人の学力の状態を把握しにくい、生活環境が把握しにくい、教職員の共通理解や連携ができず、保護者の理解・協力を得にくい状況とある。このことこそがイジメ等を見抜けない要因の一つではないでしょうか？また、自殺や殺人事件等にもつながっているのではないのでしょうか？ 小規模校において切磋琢磨する機会とありますが、人間本来の生きる力・生活できる力が未熟な中で、切磋琢磨させてきた結果、痛ましい事件が全国で、また既に加古川でも起きています。子どもの人生において小学校や中学校は競争する場所ではなく、本当に一人一人がいろいろな考え方を持っているのが当たり前だと教え、学ばせる場所だと思っています。	大規模校においても、子ども一人一人の状態を把握するための様々な創意工夫をしながら対応しているところです。今後も学校規模に起因する教育課題等を把握しつつ、それぞれの状況に応じた検討を行ってまいります。また、学習や運動において、勝ち負けにこだわったり、過度な競争を煽ったりすることが必要ではなく、他者と共同して学ぶことは重要であると認識しています。色々な友達から刺激を受け、自分の目標を持って、学習や運動に取り組むことは児童生徒の力や意欲を高めることにもつながると考えています。
12		5	「小規模校の特徴」の「学習面」の「デメリット」に競争がなく、向上心や競争心が育ちにくいとありますが、競争によって学習させるという発想はいかがなものでしょうか。競争させることで、勝ち負けにこだわり、劣等感が強くなったり、学習することが嫌いになったりするのではないのでしょうか。学習は競争ではなく、共同するものではないかと思えます。ですから、デメリットにならないと思えます。少人数で共同的に学習できることはメリットだと考えます。	学習や運動において、勝ち負けにこだわったり、過度な競争を煽ったりすることが必要ではなく、他者と共同して学ぶことは重要であると認識しています。色々な友達から刺激を受け、自分の目標を持って、学習や運動に取り組むことは児童生徒の力や意欲を高めることにもつながると考えています。

No.	項目	ページ	ご意見等の概要	教育委員会等の考え方
13	(2) 小規模校や大規模校の教育活動の特徴	5	<p>メリット・デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友人同士や学級間での競争など、切磋琢磨する機会が少なく、向上心や競争心が育ちにくい。 ・人間関係が固定化されやすく、関係が悪化すると解消されにくい。 ⇒教師との関係も含めて、友人との関係が一度にこじれると改善しにくく、学校でのいじめ、不登校の要因になる。 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校では専門の教科以外の授業を担当する。 ・バランスのとれた教員配置が難しい。 ・部活動の種類や外部指導者が少ない。 ・職員数が足りない。 ⇒他校との学力差、学校での経験や部活動の醍醐味を経験できない。 	<p>小規模校のデメリットとして、ご指摘のようなことの一因となるのが懸念されますが、学校ではデメリットを克服するための様々な創意工夫をしながら対応しているところです。</p> <p>今後も学校規模に起因する教育課題等を把握しつつ、それぞれの状況に応じた検討を行っていきます。</p>
14		5	<p>●大規模校、小規模校それぞれのメリット、デメリットについては、現実の状況として、よくわかる。しかし自身の子どもは、小規模校だからこそ得られるきめ細かな指導と目配りで、自閉症スペクトラムを抱えながらも充実した小学校生活を送ることができた。</p> <p>昨今の発達障害や不登校など、子ども、保護者、学校、地域コミュニティも含め、包括的に考えねばならない問題が増えている状況で、安易に“少なくなつたから統合”という進め方には疑問を感じる。</p> <p>●小規模には小規模の、大規模には大規模の良さや特徴があることを生かし、活用することはできないか。</p> <p>例) 中学校区あるいはもう少し広域で、普通規模と小規模の学校を1校でも残す。</p> <p>いじめや不登校など、きめ細かな関わりが必要なケースでは、希望すれば、小規模校に移ることができる、など。</p> <p>●しんどい子どもたちにとっての、安心できる居場所を少しでも確保し、豊かな学校生活を送ってほしいという保護者の願いもあることを汲んでいただきたい。</p> <p>●校区が広域になれば、スクールバスの問題(乗り遅れた際の安全対策、等)や、放課後友だちと過ごす時間や空間の制約が生じるなど、弊害も考えられる。また、災害時には避難所となる学校施設を統合することで、コミュニティの結びつきにも影響があると懸念される。</p>	<p>ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>
15		5	<p>小規模校のメリットは、1クラスの人数が少ないところです。そのため子ども一人一人の顔が見え、一人一人が活躍する場があり、大切にされていると感じています。</p> <p>ゆとりを持って教育活動に取り組むためには、ここにあと1名教員が配置されればと考えます。</p>	<p>教員定数については、県の配置基準によって定められており、市単独で教員を増員することは困難な状況ですが、学校では引き続き小規模校のメリットを生かし、デメリットを克服するための様々な創意工夫をしながら対応していきます。</p>
16		5	<p>小規模校の特徴のうち、学校運営面のデメリットを解消するためには、職員数を増加することで対応できるため、教育予算と人員の増を行うこと。</p> <p>その他の項目は、子どもたちには関係ない。人間関係は社会全体で考えるべき。</p>	<p>教員定数については、県の配置基準によって定められており、市単独で教員を増員することは困難な状況ですが、子どもたちにとってよりよい教育環境を実現するために、引き続き教育予算の充実に努めるとともに、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>

No.	項目	ページ	ご意見等の概要	教育委員会等の考え方																
17	(2) 小規模校や大規模校の教育活動の特徴	5~6	大規模校を適正規模にするために、校区の見直しが必要である。校区が広がると、スクールバスが必要になり、早い時刻と遅い時刻で差が出る。バスの中での安全の確保はどのようにするのか。児童・生徒に何かあった時、運転手1人で対応するのか。切磋琢磨し競争させることで不登校が増えている。助け合うことが大切である。	ご意見の内容を含め、スクールバスを運行する場合には、児童生徒の安全確保を最優先に検討を進めます。																
18		6	大規模校の問題として、一人一人を学校が把握することが今求められており、いじめ問題も十分に把握できていないことが原因である。小規模校では発生しにくい。	一般的に大規模校は子ども一人一人の状態が把握しにくいというデメリットがありますが、学校ではデメリットを克服するために様々な創意工夫をしながら対応しているところ。今後も学校規模に起因する教育課題等を把握しつつ、それぞれの状況に応じた検討を行っていきます。																
3 適正な学校規模と適正配置																				
19	(1) 適正な学校規模	7~9	<p>適正な学校規模 小学校：12~24学級 中学校：9~24学級</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1年度</th> <th>R7年度</th> <th>R13年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>両荘中学</td> <td>161人(6学級)</td> <td>148人(6学級)</td> <td>82人(3学級)</td> </tr> <tr> <td>志方中学</td> <td>199人(6学級)</td> <td>184人(6学級)</td> <td>116人(3学級)</td> </tr> <tr> <td>神吉中学</td> <td>687人(19学級)</td> <td>627人(17学級)</td> <td>469人(13学級)</td> </tr> </tbody> </table> <p>「現在の中学校区の枠組みを維持することを前提に…」とあるが、数年後にまた中学校区の再編について議論するのなら、今回の機会に5年後、10年後を見据えて適正な学校規模を進めるべき。 「学校施設等の状況」で記述があるが、志方、両荘、神吉のどの学校施設も築40年以上経過しており、トイレも和式が主流のため、使い勝手が悪い面も目立つ。 志方、両荘、神吉の加古川西側地域の校区を統合し、新設で施設一体型の中一貫教育を導入してほしい。</p>		R1年度	R7年度	R13年度	両荘中学	161人(6学級)	148人(6学級)	82人(3学級)	志方中学	199人(6学級)	184人(6学級)	116人(3学級)	神吉中学	687人(19学級)	627人(17学級)	469人(13学級)	<p>ご指摘のとおり、児童生徒数の減少がそのまま続くと、将来的には中学校区の再編について議論する必要があることは認識していますが、現状では地域コミュニティの枠組みが中学校区を基本として形成されており、様々な連携を進めてきた経緯もあり、直ちに中学校区の再編を行うことは困難だと考えています。 ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>
		R1年度	R7年度	R13年度																
両荘中学	161人(6学級)	148人(6学級)	82人(3学級)																	
志方中学	199人(6学級)	184人(6学級)	116人(3学級)																	
神吉中学	687人(19学級)	627人(17学級)	469人(13学級)																	
20	7	<p>学級定数を40人から35人、30人と減らすことで学級数を適正にすることを最優先すべきである。(定員を減らせば学級数は増える。) 学校がなくなるということは、地域のコミュニティを壊すことになり、沈滞してしまう。(子どもの声のない地域はさびれていく。)</p>	<p>学級定員については、国の学級編成基準、兵庫県の方針に基づいて実施していますので、ご理解くださいますようお願いいたします。 なお、定員改善を求める意見は、本市に限らず、各市町から県を通じて国に要望しており、今後も継続して要望していきます。 また、学校は地域コミュニティの核として地域とも深いつながりを持ちながら大きな役割を果たしていることから、ご意見も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>																	

No.	項目	ページ	ご意見等の概要	教育委員会等の考え方
21	(1) 適正な学校規模	7	「適正規模」とされる考え方の中には、ひとクラスの児童数が何人であるかの視点が抜けています。大規模校・過大規模校では学級定数が1～4年で35人、5・6年で40人のため、各クラスが33～40名になります。担任一人が受け持つ人数としては多すぎます。	学級定員については、国の学級編成基準、兵庫県の方針に基づいて実施していますので、ご理解くださいますようお願いいたします。 なお、定員改善を求める意見は、本市に限らず、各市町から県を通じて国に要望しており、今後も継続して要望していきます。
22		7	◎学級規模は、次期学習指導要領で行う「主体的・対話的で深い学び」を実践するにふさわしい規模にすべきです。現在世界の潮流は、「小さな学校」「小さなクラス」です。WHOは、生徒100人を上回らない学校規模を勧告しています。外国の学校規模は、100～200人程度で、しかも、一般的に1学年1クラスでクラス替えがありません。(10～20人のクラス替えのない集団は、助けあい支え合う長年の共同生活を通して生徒児童が磨きあって質のよい素晴らしい集団に発展します)。これからも分かるように、今、統廃合の対象になっている学校が、先進諸国の理想に近い学校規模です。参考にすべきは、ジョン・デューイの理想を実現するための「実験学校」です。 ◎「GDPのうち教育に掛ける公的支出の割合」は、途上国も含めて日本は、123位。「日本は教育に対して、途上国以上にほとんど税金を使わない国になっている」2007～2014年(8年連続)その後も、「日本の教育にかかる公的支出割合の低さ」をOECDに指摘(2014年以降)されるも無視を続けています。 公立小中学校教員を9年間で、約3万7,000人削減を計画実施。今、加古川市の提示している「適正規模」は、教育的観点からではなく、予算的観点からではありませんか。 ◎未来の日本の「存立」を考えるに当たって、「食糧問題と教育問題」は重要です。戦後日本は、MSA協定によりアメリカの余剰農産物を引き受け、それを受け入れるために、リアス海岸が北から南に巡る、農耕可能な土地が2割5分しかないと言われる国で、減反をはじめ、水田の壊廃を半世紀以上にわたって続けてきた結果、現在(2009年)253万ha(四国4県+宮崎県の面積)に当たる水田を壊廃してしまっており、現在(2013年)穀物自給率28%(世界173国・地域中124番目、0%が12ヶ国)です。 ◎「優秀な『もの』をつくってそれを輸出して、その金で『食糧』を買う」という戦略で国づくりを進めてきました。優秀な「もの」をつくるためには、他国よりも優秀な「ひと」に教育しなければなりません。そのために他国よりも優秀な「ひと」を教育しなければなりません。そのために他国よりも優秀な「教育環境」を整えなければ、国家的戦略が実現しません。国家の将来がかかった、国家の存亡に関わる重要な決定であります。このような「学校の適正規模」で、後世に責任がとれますか。	学級定員については、国の学級編成基準、兵庫県の方針に基づいて実施していますので、ご理解くださいますようお願いいたします。 なお、定員改善を求める意見は、本市に限らず、各市町から県を通じて国に要望しており、今後も継続して要望していきます。 ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。
23		7	地域から学校がなくなるとするのは、地域のコミュニティを衰退させることになると思う。学校のない所に若者は来ない。 校区が広がることによって通学の安全性も下がり、子ども達の放課後がなくなってしまう。子どもに原風景を残してほしい。	学校は地域コミュニティの核として地域とも深いつながりを持ちながら大きな役割を果たしていることから、ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。
24		8	下から9行目以降から次ページについては、今後の検討スケジュールを示しているのだから、5の「今後の進め方」にスケジュールとして記載したほうがわかりやすいのではないか。	ご指摘の部分については、学校規模を検討する範囲として定める「11学級以下の小学校」及び「8学級以下の中学校」のうち、とりわけ1学年1学級の学校を含む地域を速やかに検討する必要性を記載しているものであり、スケジュールを示したものではありませんので現状のままとさせていただきます。

No.	項目	ページ	ご意見等の概要	教育委員会等の考え方
25	(1) 適正な学校規模	8	<p>学校規模の適正化を検討する範囲 山手地区 ・神野小学校からの進学先を山手、陵南どちらかに決定するのではなく、選択できるようにしていただきたい。</p> <p>現在、神野小学校1学年2クラスだが、将来的に小学校の統合も必要だと思う。今後は中学校の統合等も考えていく必要があるのではないか？スクールバス導入etc課題はあるが・・・</p> <p>※子どもは子どもの中で成長していくものであり、子どもが少ないからと言って地域で育てましようというのは大人の勝手ではないでしょうか？ある程度の人数、同世代のお友達がいて、地域の方々がいてこそ教育だと思います。加古川はまだ、統合等できることがあると思います。 (離島や山奥ではないのですから！)</p>	<p>進学先の中学校が異なる神野小学校については、小学校から中学校への「タテ」の連携等において課題があり、校区を再編する場合は、子どもたちの通学環境の変化や家庭・地域への影響など、解決すべき大きな課題があると認識しています。</p> <p>ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>
26		8	<p>大規模校の小学校・中学校の保護者と教職員の方が、教育環境を良くしてほしいと求めている割合が多いと読み取れ、こちらを改善する方が先ではないか、と考えます。</p>	<p>学校規模の適正化については、今後の児童生徒数の推移や、学校規模に起因する教育課題等を把握し、引き続きそれぞれの状況に応じた検討を行っていきますが、アンケート調査結果や「地域とともにある学校づくり協議会」の意見を踏まえ、現在及び今後10年以内に1学年1学級となることが見込まれる小規模校について速やかに検討を進めていきたいと考えています。</p>
27		8	<p>教員自体が大規模校の問題を指摘している。大規模校こそ見直しを求める。</p>	<p>学校規模の適正化については、今後の児童生徒数の推移や、学校規模に起因する教育課題等を把握し、引き続きそれぞれの状況に応じた検討を行っていきますが、アンケート調査結果や「地域とともにある学校づくり協議会」の意見を踏まえ、現在及び今後10年以内に1学年1学級となることが見込まれる小規模校について速やかに検討を進めていきたいと考えています。</p>
28		8～9	<p>今、小規模校の事が問題視されているように思いますが、一方で1,000名を超える鳩里小をはじめ、それに近い学校についても検討を早急をお願いします。 (長期的には適正規模に移行が見込まれる)と書かれていますが、子どもにとっては今しかありません。 体育館使用は2クラス、プールは芋の子状態、通学路の危険性(人が多すぎ)など、今起こっている状況についてすぐ検討をお願いします。</p>	<p>学校規模の適正化については、今後の児童生徒数の推移や、学校規模に起因する教育課題等を把握し、引き続きそれぞれの状況に応じた検討を行っていきますが、アンケート調査結果や「地域とともにある学校づくり協議会」の意見を踏まえ、とりわけ今後10年以内に1学年1学級となることが見込まれる小規模校について速やかに検討を進めていきたいと考えています。</p>
29		9	<p>日本の学校の適正基準は、国際基準と照らし合わせても、大きすぎます。小規模校といわれている学校は適正サイズとされている。大規模校の見直しこそ今すぐ必要だと思います。</p>	<p>学校規模の適正化については、今後の児童生徒数の推移や、学校規模に起因する教育課題等を把握し、引き続きそれぞれの状況に応じた検討を行っていきますが、アンケート調査結果や「地域とともにある学校づくり協議会」の意見を踏まえ、とりわけ今後10年以内に1学年1学級となることが見込まれる小規模校について速やかに検討を進めていきたいと考えています。</p>

No.	項目	ページ	ご意見等の概要	教育委員会等の考え方									
30	(1) 適正な学校規模	9	<p>適正化を検討する範囲に含まれる大規模校・過大規模校については、中長期的には適正規模に移行することが見込まれるとされていますが、学級定数が30人や25人に改善されれば、学級数は増えます。</p> <p>何より、今現在、過大規模校で定数ギリギリの学級の中で、必要な手立てが届いていない子どもたちに、十分な支援の届く学校になるよう、考えていただきたいと願います。</p>	<p>学級定員については、国の学級編成基準、兵庫県の方針に基づいて実施していますので、ご理解くださいますようお願いいたします。</p> <p>なお、定員改善を求める意見は、本市に限らず、各市町から県を通じて国に要望しており、今後も継続して要望していきます。</p> <p>また、過大規模校ではデメリットを克服するための様々な創意工夫をしながら対応しているところですが、今後も教育課題等を把握しつつ、それぞれの状況に応じた検討を行っていきます。</p>									
31	(2) 学校の適正配置	10	<p>通学距離</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>通学距離</th> <th>通学時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>おおむね4km以内</td> <td>おおむね1時間以内</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>おおむね6km以内</td> <td>おおむね1時間以内</td> </tr> </tbody> </table> <p>志方中学校からの距離で考えると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宝殿駅 約4.3km 徒歩1時間 ・加古川西高校 約6.5km 自転車30分 ・両荘中学校 約6.5km 自転車30分 ・加古川中学校 約8.5km 自転車40分 ・氷丘中学校 約10.0km 自転車50分 など <p>かなり広範囲が「通学距離になっても妥当」となる。現実的に、加古川を渡り加古川市の東側へ通学することは難しい。特に小学校1年～3年の低学年が、雨の中を1時間徒歩通学は安全面、体力面で無理。</p> <p>志方、両荘、神吉の加古川西側地域の校区を統合し、新設で施設一体型の小中一貫校を導入して欲しい。場所は、平荘湖の旧温水プール跡地周辺が良いのではないか。</p> <p>スクールバスを導入し、志方、両荘、神吉の現在の小学校、中学校、公民館などを経由しながら、20分間隔で朝：2～3便、夕方：4～6便を運行してほしい。</p> <p>また、保護者が自家用車で来校できるよう駐車場（100～150台程度）を確保してほしい。</p>		通学距離	通学時間	小学校	おおむね4km以内	おおむね1時間以内	中学校	おおむね6km以内	おおむね1時間以内	<p>児童生徒の通学時間の妥当性、通学経路の安全性の確保については、検討を進めるうえで大きな論点のひとつであると認識しており、9ページに記載のとおり、通学距離や通学時間への影響も考慮すると、原則、現在の中学校区の枠組みを維持することを前提に検討することとしています。</p> <p>ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>
	通学距離	通学時間											
小学校	おおむね4km以内	おおむね1時間以内											
中学校	おおむね6km以内	おおむね1時間以内											

No.	項目	ページ	ご意見等の概要	教育委員会等の考え方
	4 規模適正化の手法			
32	(1) 学校（同校種間）の統合 (2) 小中一貫教育の導入 (3) 校区の再編 (4) 学校の分離新設 (6) その他教育環境を整備する手法	11	小規模校だけを対象とした方針でなく、大規模校を具体的に入れること。	「4 規模適正化の手法」には、小規模校だけでなく、大規模校を含めた学校規模の適正化を図るための手法を例示列挙しています。そのうち大規模校の適正化を図るための手法としては、例えば「(4) 学校の分離新設」「(5) 学校施設の整備」が考えられますが、9ページに記載のとおり、大規模校及び過大規模校については、今後の児童生徒数の推移や、学校規模に起因する教育課題等を把握し、引き続きそれぞれの状況に応じた検討を行っていきます。
33	(1) 学校（同校種間）の統合	11	地域の一番の問題は、少子高齢化です。現校区から小学校が使われなくなるのであれば、ますます転出が進むことが容易に想像されます。現校区の現校舎を使用することが望ましい。児童の規模のみで、地域の拠点である学校について進めるのはおかしい。 特に小規模校を活かし、地域の方の協力を得た取り組みをしているのだから、市内広く児童を受け入れ、多様化した教育に対応するのがいいのではないか。 児童数は関係なく、一律化した学校教育に馴染めない生徒を受けり入れる施設などとしても利用できるのではないか。 全保護者・全住民の意見を聞いて、方針を決めることを希望します。	学校は地域コミュニティの核として地域とも深いつながりを持ちながら大きな役割を果たしていると認識しています。 ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。 また、協議過程の中で、必要に応じて保護者や地域住民の意見を聞く機会を設けていきたいと考えています。
34	(2) 小中一貫教育の導入	11	両荘地区は自然に恵まれ季節に合わせた学習がすすめやすい上、地域との関わりが密にあり、学校、家庭の力が一つになり、児童の力が発揮しやすい場所だと思っています。今、自然体験の良さも注目されており、少人数だからこそできることもたくさんあります。 また、大人数だからこそ切磋琢磨・競える良さ、人間関係の構築ができる良さもあります。この2つを取り入れている施設分離型を希望します。 両荘地区の魅力アピールするとともに、山村留学までとはいきませんが、上荘地区に入学を希望する人がいれば在学できるよう配慮していただけたらと思います。 両荘幼稚園の園児数が増え、活気あふれる幼稚園になりますようご配慮して頂きますようよろしくお願い申し上げます。	ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。 なお、両荘幼稚園については、現在は5歳児2人となっており、今後も園を安定的に継続して運営していくためには、小規模園のデメリットを補いきれない状況が生じることが予想されることや、両荘幼稚園が所在する区域Cについては、現在の「教育」を希望する1号認定子どもの利用定員が令和元年度の利用人数を大きく上回っており、今後も就学前児童数の減少等が見込まれることから、令和2年度の両荘幼稚園の入園募集は休止する予定です。
35		11	小学生と中学生の成長期の心や身体の発達のスピードはかなり違う。一般家庭なら兄弟姉妹として当たり前としても、学校等の大人数での生活の場では、かなりのストレスが発生し、こころの成長には良いとは言い難い。どうしても一貫校にするのならば、中高の方がまだストレスは少ないのではないかと大学の専門教授にも聞いたことがあります。 一貫校教育の導入は、「小中」も「中高」も反対します。	小学校と中学校では、身体や精神の発達等においてかなりの差異があると考えられます。現在では、小学校は6年間、中学校は3年間と規則的に区切って捉えておりますが、小中一貫校にすることによって、例えば、4-3-2制など9年間を人間の発達段階に応じてより適切に区切って捉えることが可能となり、児童生徒にとって、より負担の少ない教育活動が提供できることが可能となります。 ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。

No.	項目	ページ	ご意見等の概要	教育委員会等の考え方
36	(2) 小中一貫教育の導入	11	<p>1～4学年の基礎・基本の定着（学習の習慣確立、読み、書き、計算）。校外学習、地域での体験学習（稲作、加古川和牛の飼育・精肉、綿花栽培・靴下産業、播磨の歴史と史跡訪問）など、身近にある地元産業を体験させて欲しい。</p> <p>体の変化、心の変化が大きい5～7学年で基礎・基本、周囲との関わり。中学校のように、各教科で専門教師が授業を受け持つ教科担任制度にして、国語、算数、理科、社会、英語およびPC（プログラム）、英会話コミュニケーション学習にも力を入れて欲しい。新設学校にすることで専門教室、設備も導入しやすくなると思う。</p> <p>小学校のクラブ活動も、中学校の部活動につながり、経験できる種目、文化部を増やすことができる。</p> <p>8～9学年で進学や就職を意識した個性の表現、自己主張の方法を学ぶ時間を設けて欲しい。</p>	<p>小中一貫校にすることによって、例えば、4-3-2制など9年間を人間の発達段階に応じてより適切に区切って捉えることや、「ふるさと科」のような新たな教科を設定することが可能となります。</p> <p>ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>
37		11	<p>小中一貫教育導入について、施設の設備以外でデメリットを教えてください。</p> <p>また、小中一貫教育が導入された場合に、本年度市内全校で改修工事中のエアコン設置費用などについてどのようにお考えでしょうか？</p>	<p>施設一体型小中一貫教育を導入した場合のデメリットについては、一部の子どもの通学距離が延びることで、通学時間が増加することが考えられます。</p> <p>また、小中一貫教育を導入する場合、実際の開始までに一定の期間を要することから、子どもたちの健康維持のためには空調設備は必要であると考えており、仮に跡地の施設活用を行わない場合は、耐用年数や費用対効果等を踏まえ、他施設への転用など、できるだけ有効活用するよう検討します。</p>
38		11	<p>規模適正化の手法として、上荘小・平荘小・両荘中を小中一貫教育のモデルプランとして提示していますが、全国的にみても「小中一貫校の教育効果」がどれだけあるのか、検証は十分に行われていません。まだ未確立、未経験の分野であり、「中1ギャップ、いじめなどの克服」についても、その効果に疑問が出されています。通学、授業時間、校庭、校舎、体育館の使用・部活・学校行事、文化活動等、小学1年生から中学3年生までをひとつにしてしまうことには矛盾や問題点が多すぎます。子ども達の生活リズムには全く合っておらず、子どもたちが犠牲にされてしまいます。施設分離型の場合も、学校間の連携のため職員間や地域間、保護者間、教職員と地域間の協議や会議などに時間がとられ、負担が増大する恐れがあります。統合する場合には必ず、職員数も減少しているという現状の中で、子どもたちの教育環境が良くなると言えるのでしょうか。</p> <p>小規模校のデメリットを緩和するために、上荘小、平荘小との体育・スポーツ交流や大規模校との地域伝統文化の交流など、子どもたちのふれ合う場を年間通して実施することが好ましいと思います。他市ですすで取り組まれているように、異学年集団での共同学習や体験学習の計画的な実施も効果が期待されます。</p>	<p>小中一貫教育についてはメリット、デメリットがあり、様々な視点から検討する必要があると認識しています。</p> <p>ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>

No.	項目	ページ	ご意見等の概要	教育委員会等の考え方
39	(3) 校区の再編	11	<p>校区の再編というのがすぐに進められそうに思います。再編によって規模が適正化されるのであれば良いと思います。子どもたちにとってメリットがある再編であれば進めていって良いのではないのでしょうか。</p> <p>しかし、資料1の山手地区に対する地域とともにある学校づくり協議会が提示したモデルプランのうち、Cの項目については反対です。選択できる学区にしてしまうと近所で異なる学校になってしまいます。</p> <p>市や市の教育委員会で市民の意見をふまえて、もし変更になるのであれば、中学校入学の2～3年前には決定したことを通知してほしいです。</p>	<p>校区を再編する場合、子どもたちの通学環境の変化や家庭・地域への影響など、解決すべき大きな課題があると認識しています。</p> <p>ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていくとともに、決定する際には、できる限り早い段階で市民の方々にお知らせすることに努めます。</p>
40	(6) その他教育環境を整備する手法	11	<p>小規模特認校の導入について賛成です。今後、児童・生徒が少なくなっていくことを考えると、統廃合を繰り返していくことになるのではないのでしょうか。</p> <p>そうではなく、特認校の発想を取り入れ、地域に根ざした学校として取り組むことが必要だと思います。</p>	<p>小規模特認校制度を取り入れることで、地域の特色を生かした独自のカリキュラム実践、外部人材を取り入れた教育活動などが可能となります。</p> <p>これまでの各校の取組や伝統を考慮しながら、ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>
41		11	<p>①②について 就学検討時期に体験入学などあればよいのではないかと考えますが、導入時には検討していただきたいです。</p> <p>③について 普段の学校生活でも低学年や隣接する学校だけでなく、市内全校と交流する機会があればいいのではと思います。</p>	<p>いただいたご意見の内容については、今後の参考とさせていただきます。</p>
42		11	<p>現在の40人学級を見直し、30人学級や25人学級を実現することで学級減に歯止めをかけてもらいたい。少人数授業の効果も期待でき、生徒にとっても望ましい方向であると考えられる。国に30人学級や25人学級の実現を求めるとともに、県や市独自で実現できる施策を考えてもらいたい。</p> <p>学校選択制の導入には反対します。学校選択制により、制度を悪用した不適切な就学が増加することが懸念されます。部活動による校区外通学を認めた結果、許可基準にあたらぬ校区外通学や居住実態を伴わない住民票の異動を疑われる転入が黙認されている現状があります。私自身も竹刀を持った生徒がJRを利用して通学している場面に何回か遭遇しました。</p> <p>生徒の不適切な転出や転入が起こると、4月になってからの突然な学級編成替えが求められ、学校現場は大きく混乱します。市教委には、新しい制度の導入に際して、運用を現場まかせにせず、制度が正しく運用されているか市教委が責任を持って点検し不正に対応できる制度を構築してもらいたい。</p> <p>部活動による校区外通学等が適切に運用されていない現状を踏まえると、学校選択制は悪用される可能性が大きい。以上の観点から、「規模適正化の手法」から(6)②学校選択制の導入を削除するよう強く望みます。</p>	<p>学級定員については、国の学級編成基準、兵庫県の方針に基づいて実施していますので、ご理解くださいますようお願いいたします。</p> <p>なお、定員改善を求める意見は、本市に限らず、各市町から県を通じて国に要望しており、今後も継続して要望していきます。</p> <p>また、学校選択制のデメリットとして、ご意見のようなことも懸念されますが、「4 規模適正化の手法」は、一般的に考え得る手法を例示挙しているものであり、必ずしもここに記載される手法が採用されるというものではありません。</p>

No.	項目	ページ	ご意見等の概要	教育委員会等の考え方
	5 今後の進め方			
43	(1) 基本的な協議の進め方 (2) 学校の規模適正化・適正配置を進める上での留意点	12	協議の進め方では、いろいろな協議会をつくって進めるようですが、一般の地域の住民が意見を述べる場があるのでしょうか。一住民の意見を述べる場がほしいと思います。 留意点の中で、教員を増やすことで、2学級にすることも可能なので、教員の加配など条件整備についても検討してほしいと思います。	教員定数は県の配置基準によって定められており、市単独で教員を増やすことは困難な状況ですが、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。 また、協議過程の中で、必要に応じて地域住民の意見を聞く機会を設けていきたいと考えています。
44		12	子ども達を主人公として、地域と時間をかけて考えを作っていくこと。小中一貫には反対する。	子どもたちにとってよりよい教育環境を整備していくことを前提に、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。
45		12	本案は、「学校規模及び適正配置に関する基本方針」であるにもかかわらず、12ページに記載している内容は、「協議を進めるうえでの基本方針」ではない。(1)の見出しを「検討の基本的な進め方」に改め、「協議を踏まえて、学校規模の適正化及び適正配置を進めます。」の一文が必要ではないのか。(2)のリード文と合体させてはどうか)ただ、現文では「学校運営協議会等を中心に……具体的な方策を検討し……」とあり、これではすべてを学校運営協議会に委ねるとも捉えられ、行政(教育委員会)の主体性が読み取れない。 「協議会のご意見を踏まえ」とあるが、協議会が策定したモデルプランをどう取り扱うのか、また、①ご意見を前提に協議を進め、規模の適正化等を図ろうとするのか、又は②ご意見はあくまで参考として協議を進め、規模の適正化等を図ろうとするのか不明である。附属機関として位置付けていないのであるから、②であると思料するがご意見を教えていただきたい。 今後検討するに当たっては、今後当該地区の小学校を利用することとなる保護者の方へのアンケートをぜひお願いしたい。	学校運営協議会は、地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」への転換を目指しており、本市では令和3年度までに学校運営協議会を設置する方針で進めています。このようなことから、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。 また、協議過程の中で、必要に応じて地域住民の意見を聞く機会を設けるとともに、学校運営協議会の協議が円滑に進むように教育委員会事務局としても積極的に関わり、最終的には教育委員会において方向性を決定し、学校設置者である市長とも協議しながら進めていく予定です。 また、本方針は、地域とともにある学校づくり協議会からのご意見を参考に内部で検討して作成したものであり、モデルプランについても考えうる複数案が例示されたもので、今後、各地区の規模適正化策を検討する上での参考意見として取り扱っていく予定です。

No.	項目	ページ	ご意見等の概要	教育委員会等の考え方
46	(2) 学校の規模適正化・適正配置を進める上での留意点	12	<p>複式学級となることの可能性についても考慮すべきではないのか。</p> <p>昨年度から今年度にかけて、「学校園施設長寿命化計画」を策定中のはずであり、当該計画との整合についても留意すべきである。また、P1の表にもそのことがわかるように記載すべきであるとともに、P9の表もこちらに移したほうがわかりやすいのではないのか。</p> <p>学校が避難所等地域コミュニティにおいて果たしている役割についても留意すべきである。</p>	<p>ご指摘のとおり、令和元年度中の学校園施設長寿命化計画の策定に向けて取り組んでいるところであり、本方針に基づき、計画に反映させていく予定であることから、12ページ「⑧関係計画との関連性」に追加させていただきま</p> <p>す。</p> <p>また、1ページ「◎これまでの検討経緯（平成29年～31年度）」のハード面は、本計画を策定していく過程を記載したものではありませんが、本方針の策定に至ったこれまでの経緯を整理した表であり、本計画を策定するまでの経緯や、9ページ「◎学校施設等の状況」を記載することは適切ではないと考えています。</p> <p>複式学級や避難所機能に関するご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>
◎資料編 資料1 これまでの主な意見等				
47	山手地区		<p>神野小に在籍しており、兄が陵南中に通学しています。兄弟で学校が変わることはもちろん反対ですし、10分～15分で通学できることから山手中の30分以上かかる通学先が変わるのは反対です。</p> <p>下が女の子ですし、通学路が危なすぎます。神野小区域が陵南、山手と分かれるのは、広いので、少し理解できますが、すべてを山手に統一する必要性が感じられません。安全性に欠けたデメリットが多すぎます。石守地域は今子ども数が増えています。学校、店舗、交通等、メリットが多く感じられているのに、校区を変えることは反対です。</p>	<p>進学先の中学校が異なる神野小学校については、小学校から中学校への「タテ」の連携等において課題があり、校区を再編する場合は、子どもたちの通学環境の変化や家庭・地域への影響など、解決すべき大きな課題があると認識しています。</p> <p>ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>
48			<p>神野小学校からの進学先について、現在、陵南中学校区に居住しているが、山手中に子どもが通うことになると非常に遠くなる。</p> <p>また、通学路に人通りの少ない箇所も多く、不審者対策が心配。また、姉妹のうち、姉は陵南で妹の時に山手に通わないといけなくなると、学用品などの準備が大変。各家庭の事情も考慮するなら、Cの選択できる学区が適当と考えます。</p>	<p>進学先の中学校が異なる神野小学校については、小学校から中学校への「タテ」の連携等において課題があり、校区を再編する場合は、子どもたちの通学環境の変化や家庭・地域への影響など、解決すべき大きな課題があると認識しています。</p> <p>ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>
49			<p>山手地区の校区変更について</p> <p>家を建てる際に、どこの小学校・中学校に通うことになるかも考えて陵南中学校区に決めました。</p> <p>今回の基本方針資料は、市民には見えにくい在籍児童数・生徒数の推移や問題点がとてもわかりやすく、また市民の意見を出す機会を設けてくださったことはありがたいことだと思います。</p> <p>ただ、5年後に変更と言われても受け入れ難いので、時間をかけて進めてもらいたい。</p> <p>姉妹間で違う中学へ進学することや、通学時間がかかることを考えると、通学先は選択できる方がよい。</p>	<p>進学先の中学校が異なる神野小学校については、小学校から中学校への「タテ」の連携等において課題があり、校区を再編する場合は、子どもたちの通学環境の変化や家庭・地域への影響など、解決すべき大きな課題があると認識しています。</p> <p>ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>

No.	項目	ページ	ご意見等の概要	教育委員会等の考え方
50	山手地区		<p>神野小学校卒業した児童の入学する中学校について 山手中学校に変更する案があるが、現状のまま陵南中学校に入学することを希望します。山手中学校は遠いし、クラブで遅くなると暗くて下校する時間も遅くなり心配です。</p>	<p>進学先の中学校が異なる神野小学校については、小学校から中学校への「タテ」の連携等において課題があり、校区を再編する場合は、子どもたちの通学環境の変化や家庭・地域への影響など、解決すべき大きな課題があると認識しています。 ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>
51			<p>神野小学校卒業した児童の入学する中学校について 山手中学校に変更する案があるが、現状のまま陵南中学校に入学することを希望します。山手中学校はとても遠いし、通学路で下校時が暗くて心配です。</p>	<p>進学先の中学校が異なる神野小学校については、小学校から中学校への「タテ」の連携等において課題があり、校区を再編する場合は、子どもたちの通学環境の変化や家庭・地域への影響など、解決すべき大きな課題があると認識しています。 ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>
52			<p>学校規模適正化及び適正配置という人数を平均化させる方が好ましいというお考えが良いという基本方針（案）ですが、私自身、自宅購入の際、陵南中学校区であると陵南中学校の校風や通学の利便性も見極めた上で購入いたしました。今さら、山手中学校へ行くことは断固反対です。神野小学校から山手中・陵南中へと分かれることはわかって登校しておりまして、何ら問題などございません。陵南中学校で野口北小の皆と新たな出会いを喜んでおります。</p>	<p>進学先の中学校が異なる神野小学校については、小学校から中学校への「タテ」の連携等において課題があり、校区を再編する場合は、子どもたちの通学環境の変化や家庭・地域への影響など、解決すべき大きな課題があると認識しています。 ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>
53			<ul style="list-style-type: none"> ・神野小学校からは現状通り、山手中・陵南中に行くように変えないで欲しい。 ・小学校は神野、中学校は陵南と思って家を購入している人がたくさんいる。 ・神野小からは山手中に行くとなると、元々陵南に行く地区の子どもは通学に時間がかかり反対。 ・逆に神野小から陵南となると元々山手地区の子どもは通学に時間がかかりそれも反対。 	<p>進学先の中学校が異なる神野小学校については、小学校から中学校への「タテ」の連携等において課題があり、校区を再編する場合は、子どもたちの通学環境の変化や家庭・地域への影響など、解決すべき大きな課題があると認識しています。 ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>

No.	項目	ページ	ご意見等の概要	教育委員会等の考え方
54	山手地区		<p>学校規模適正化の名目のもとに、石守団地は神野小→山手中から神野小→陵南中に変更になった。その後学校関係者や地域住民ら一丸となり努力の結果、市内随一の中学校となった。</p> <p>校区再編の名のもと、今度は神野小→山手中に変更になりそうである。石守団地以南は山手中か陵南中のいずれかに選べるご配慮願いたい。</p> <p>学校規模適正化の名のもと十把一絡げで問答無用の考え方にならぬよう、ご配慮方お願いします。</p>	<p>進学先の中学校が異なる神野小学校については、小学校から中学校への「タテ」の連携等において課題があり、校区を再編する場合は、子どもたちの通学環境の変化や家庭・地域への影響など、解決すべき大きな課題があると認識しています。</p> <p>ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>
55			<p>神野小学校からの進学先を山手中中学校にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の通学時間が長くなり、坂道もあり、体力的に厳しい。 ・そのため、安全の確保が難しいと考えられる。 ・神野小学校から陵南中学校への希望が多く、その事を考え家の購入をした方もいると聞いている。 ・私たちの時代は、児童数も多く、生徒間や先生方も知らない現状でした。同級生でも知らないといった時代より、先生も生徒もみんなが一人一人を知っているのは、良いことではないでしょうか？わずかな変化でも気づける今の方が不登校やいじめの予防になると考えます。 <p>です。統合に反対です。</p>	<p>進学先の中学校が異なる神野小学校については、小学校から中学校への「タテ」の連携等において課題があり、校区を再編する場合は、子どもたちの通学環境の変化や家庭・地域への影響など、解決すべき大きな課題があると認識しています。</p> <p>ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>
56			<p>小学校・中学校の学校規模適正化から少しはみ出ますが、山手校区で幼稚園・小学校・中学校の幼小中一貫の教育を提案したいと思います。</p> <p>現状、やまて幼稚園、両荘幼稚園の人数を見ると、減少の一途を辿っています。</p> <p>幼稚園の園児の減少には今年の秋からの保育園無償化や給食が無いこと、時間の短さ、年数の短さが挙げられると思います。</p> <p>現場の幼稚園教諭の声を聞くと、時間に関しては延長等もあっても良いという声や、もう一年小さい子もいても良いという声も聞きます。給食に関して言えば、殆どの幼稚園が小学校の近くにあるので、小学校の空き教室で給食というのも不可能では無いと考えます。</p> <p>中学校で考えた場合、山手中中学校の人数が増えて陵南中学校ができる前の段階、つまり神野小学校の児童は山手中と陵南中に分かれるのではなく、山手中に進学を推したいと思います。その場合、陵南中が野口北小学校からの進学のみとなるが、令和13年の推計を見ると、山手中と陵南中の合併で適正規模校となるので、それを見据えても良いのではないかと考えます。</p> <p>中学校が小規模校で学級数が減少していったら、生徒や保護者はいつ、どの部活動が廃止されるのかということも不安を感じているところもあります。学校以外のクラブチームへという方針も囁かれています。実際にはクラブチームとなると、家庭によっては保護者の都合、金銭的な都合等で行きたくても行けない子どもが出てくることもあります。そのような格差を肯定的には受け入れることができません。部活動については保護者の意見を聞くこともなく、学校が廃部を決めてしまっているという訴えも聞きます。子どもの立場を優先的に考えた学校経営を訴えたいと思います。</p>	<p>幼稚園については、市全体で園児が年々減少している中で、幼児教育・保育の無償化による利用ニーズと供給体制の状況等を勘案しながら、今後の幼児教育のあり方について検討を進めていきたいと考えています。</p> <p>また、進学先の中学校が異なる神野小学校については、小学校から中学校への「タテ」の連携等において課題があり、校区を再編する場合は、子どもたちの通学環境の変化や家庭・地域への影響など、解決すべき大きな課題があると認識しています。</p> <p>ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>

No.	項目	ページ	ご意見等の概要	教育委員会等の考え方
57	志方地区		<p>小学生の子を持つ親として、PTA役員として、また教育者の一人として、そして出身者として意見提出いたします。</p> <p>私は志方3小学校、中学校の現志方中学校場所での小中一貫校（施設一体型）を強く願っています。R3年度以降の5ヵ年における児童数が3小学校合わせて380程度から325程度と年平均11名減で進んでいきます。中学においては目立った減少はないものの、R13年度問題を抱えており、学校単位だけでは充実した教育活動に限界が出てきています。小中一貫への移行により、小規模校のデメリットを少しでも解消し、適正配置基準も範囲内におさまりながらも、スクールバス（希望制）の配置、管理計画6%減の目標達成にも近づけることが可能となります。何より、子ども達のつながりは学校内だけではなく、同じ地域で学ぶ仲間である以上、新学校、地域が一体となり、特色ある新しい教育活動（農業学習、高齢者宅訪問（交流）等）を組込むことで、これからの少子化が進む中でも充実した活動が維持し続けることが出来るのではないかと感じています。</p> <p>加古川市で一番の敷地面積を誇る志方町である地域ならではの特色を教育活動の一部に取り入れ、小中一貫校として新しく生まれ変わった時、志方の人口増も見込め、結果として加古川の魅力にもなり得るとも思っています。</p>	<p>ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>
58			<p>市民で守り育ててきた学校、という観点からは、アンケートやミーティングでの意見収集は、現在子どもを通学させている保護者からだけでなく、地域全体に投げかけてほしい。</p>	<p>今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p> <p>また、協議過程の中で、必要に応じて保護者や地域住民の意見を聞く機会を設けていきたいと考えています。</p>
59	その他		<p>学校の適正規模とはどうあるべきかとの視点が不足しているように思う。</p> <p>子どもの教育にとって、小集団ならダメという固定的な考え方はやめた方がいい。また、人間関係論を言うなら、イジメは小規模校以外の方が多いことを見るべき。</p> <p>以上の根本的思考を欠いた安易な統廃合は加古川の子どもにとって災難である。</p>	<p>学校の適正規模は、「2（1）学校の役割」に記載のとおり、「子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨して、これからの時代を生き抜く力を身につけられることや、一人一人がその個性や能力を伸ばせるような教育活動」を可能にする規模であるとされており、国の法令、本市の学校規模の現状、保護者のアンケート調査結果等を踏まえ、加古川市における適正な学校規模の基準を定めました。本方針は、基準外となる小規模校及び大規模校全てを否定するものではなく、地域の実態に応じて検討していくことが必要だと考えています。</p> <p>ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>

No.	項目	ページ	ご意見等の概要	教育委員会等の考え方
60	その他		<p>子どもの加古川市内の幼稚園、小学校、中学校に通わせて感じた事を意見させていただきます。</p> <p>学校規模について そもそも、世界に通用しない平均人間を作り出し、詰め込み式で生徒の事よりカリキュラムをこなすことに重点を置いた教育制度自体が間違いである。フィンランドの教育制度が注目されており、T V、w e bで紹介されている。これからのあるべき姿は、平均的に物事をこなしていく人間を作り出していくのではない、物事を考えて作り出す事が出来る人を育てていく。という流れにならなければ、大半がA Iに仕事が奪われてしまう。 学校の規模縮小は先生、生徒にとって大きな変化になることは間違いなく、余剰となった先生同士の落とし合いのような事も考えられる。生徒数が少ないから先生の質により学習の理解度が現れやすくなる。等々ありますが、なぜ規模が縮小すると困るのか。実は大人の都合だけじゃないのでしょうか。考えて欲しいのは何処へいっても同じ教育、質の高い教育が受けれる環境をどう実現するか。減らされたら困る。とかではなく、転換期にきているので、先生によらない、どこでも質の高い教育を目指して欲しいです。教えるための手順が統一されていれば、偏りは無くなるのではないのでしょうか。</p> <p>学校の規模について 生徒数が全体的に減るので、統廃合は学校設備、先生の数と生徒の数のバランスが崩れるため、やむなし。と考えます。</p> <p>配置適正化について 生徒数が地域により偏りがある場合は無理に配置適正化はしない。なぜならば、その地域が住みやすいから住んでいるのにバランスだけみて配置適正化しないでいただきたい。 また、学区の境界付近の生徒については第一に生徒の意見を尊重する事。 以上となります。</p>	<p>ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p>
61			<p>過去何十年にも渡り、地域の中心となってきた学校が統合され、無くなると言われるといろいろ賛否両論があり、妥協点、意見集約が難しい事案だと思えます。</p> <p>地域の理解、地域行事との兼ね合い、通学路の変更などありますが、少子化になり学級数がどんどん減っていている事は、年々進行しています。 2～3年後、遅くとも5年後くらいまでには、「学校規模の最適化」を進めてください。</p> <p>なによりも、児童、生徒達が安全に、そして「学校へ行って友達と会えるのが楽しい」と笑顔で話してくれるような環境を整備していただけるのが、保護者の願いです。</p> <p>以上を念頭に、学校の設置、教育の充実を進めていただけますようお願いいたします。</p>	<p>学校は地域コミュニティの核として地域とも深いつながりを持ちながら大きな役割を果たしていると認識しています。</p> <p>ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p> <p>また、協議過程の中で、必要に応じて保護者や地域住民の意見を聞く機会を設けていきたいと考えています。</p>

No.	項目	ページ	ご意見等の概要	教育委員会等の考え方
62	その他		<p>今回のパブリックコメント実施の件について 対象小学校ですが、小学校からはお知らせプリントにて、少しの案内のみでした。わが子が通う学校のことの大切な事案であり生活する地域のことでありますが、実施されていることを知らない方が多いのではないかと思います。</p> <p>オープンミーティングは実施時間のこともあり、参加することはハードルが高いです。みなさん無関心なわけではなく、気になってるけど・・・と思われる方もいらっしゃると思います。（簡単なアンケートでも良いと思います。）</p> <p>たくさんの方の目に触れることで、いろんな意見や考えを知れる、とても良い方法だと思います。</p> <p>広報以外にも、もっと周知されるように検討されることを望みます。</p> <p>誰もが安心して暮らせる加古川市になりますように。</p>	<p>パブリックコメントの実施案内については、ホームページや広報紙への掲載、新聞記事への情報提供、学校からの保護者への案内など、重大事案との認識のもとでできる限りの周知を図ったところですが、周知が十分ではないという指摘については、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>ご意見の内容も含め、今後の学校規模に関する協議については、学校運営協議会及び学校運営協議会準備委員会を中心に、学校・保護者・地域・行政が連携しながら検討を進めていきます。</p> <p>また、協議過程の中で、必要に応じて保護者や地域住民の意見を聞く機会を設けていきたいと考えています。</p>
63			<p>①学校によって教育方針が違うことについて 義務教育で市内どの小中学校でも同じ教育を受けることができることが望ましいと考えますが、学校の伝統・校風、校長先生・先生方の考えによっての行事時期の相違、制服の有無、新1年生の5時間目開始時期の相違をどのようにお考えでしょうか？</p> <p>②自然豊かな加古川市であるのに、同じ行事や体験ができないことについて 地域の方の協力の元に行われている田植え稲刈り体験等の機会を通して、虫や草木に触れる機会も増え、将来的に加古川市で生活することを選択肢の一つにできるように思います。 今後、特に学校規模を検討されている地域や地区と連携していくことは検討されていますでしょうか？</p> <p>③将来を担う子ども達のことを想っての学校規模適正化及び適正配置に関する基本方針であると考えます。大人の都合で振り回されるのは子ども達です。現状、子どもの生活エリアは学校だけでなく、習い事や地域でクラスメイト以外と交流する機会が増えております。 子ども達自身は小規模だから大規模だからといったことを比較して学校生活が円滑に送れないと感じているのでしょうか？ 今後、子ども達に対して意見を求める機会は予定されていますか？</p> <p>④私が暮らす地域は調整区域であり、限られた人でしか開発・建築の計画がしにくいようです。 子育て世代も暮らしやすいまち作りに力を入れて、中心部だけでなく学校規模を検討されている地域や地区に魅力を感じられるようにすることは何か検討されていますでしょうか？</p>	<p>①本市では、「地域とともにある学校」をキーワードにして、令和3年度を目途に市内全ての小・中学校において学校運営協議会を設置するコミュニティ・スクールの導入を予定しています。今後、より地域の特色や伝統を生かした学校運営が進んでいくことと思われます。</p> <p>一方、市内全ての学校において、学習指導要領に示されている学習内容、学習時間は必ず確保し、学力向上を図っていきます。</p> <p>②それぞれの学校で、その地域の特色を生かした教育活動、体験活動が実施されているものと認識しています。まずは、児童生徒が暮らす、その地域で実施できる体験活動の充実を図っていきたくと考えております。</p> <p>③现阶段では、保護者や就学予定の保護者、地域住民の方々から意見を聞く場を設けていきたいと考えています。協議を行っていく中で、ご意見をいただく対象の範囲が変わっていくこともあると思います。行政のみの考えや判断で進めることなく、地域とともに協議していきたくと考えています。</p> <p>④市街化調整区域の特に人口減少・高齢化率の高い北部地域において、地域課題解決のため、地域の皆様が主体となり田園まちづくり計画を策定し、Uターン者も含め、集落に通算して10年以上居住する地縁者や市外に居住する新規居住者などの建築物を許可可能とする特別指定区域が指定できるようになるなど、田園まちづくり制度を活用いただいているところです。</p> <p>子育て世代も暮らしやすいまちづくりについては、こども医療費の無償化や産前産後家事ヘルパーをはじめ、様々な取組を進めています。また、市の北部地域においては、豊かな自然環境を生かした観光資源のさらなる活用や、交通不便地域への対策に向けた検討を進めているところで</p>

No.	項目	ページ	ご意見等の概要	教育委員会等の考え方
64	その他		<p>子どもたちの減少に、少なからず憂慮するものです。</p> <p>両荘地区は小中一貫校にでもなるのかなとも思いますが、行政に大いに不満があります。国の施策で調整区域にされ新しい住民が増えず、田園まちづくりも全く功を奏していない。形だけでした。</p> <p>また、市の施策でも下水道を通さない地区にされた両荘地域に、人口増、子ども増など望むべくもありません。</p> <p>このように行政によって作られた過疎により歴史ある学校が適正化という美名によって無くなるのは非常に悲しいことです。</p>	<p>全国的な人口減少に加え、公共インフラの維持管理についても課題がある中で、市民生活への影響をいかにして抑えていくのかということも重要となっています。</p> <p>しかしながら、この度の学校規模適正化の議論は、単純な統廃合ではなく、既存学校の存続も含め、地域の皆さまとともに、子どもたちにとって、よりよい教育環境は何かを検討していくことを目的としています。</p> <p>いただいたご意見の内容については、今後の参考とさせていただきます。</p>
65			<p>小学校の生徒数が減少しつつあることから、プールについての意見</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 年間でのプールの使用時間は10時間/生徒程度では 2. 年間の維持管理に1校あたり300万程度必要では 3. このことからプールは民間の施設を利用すべきと思う <p>民間の方が教え方も上手、教師の負担減、経費削減とメリットがある。</p> <p>令和2年から実施して欲しい。</p>	<p>いただいたご意見の内容については、今後の学校運営や学校施設のあり方の検討にあたり、参考とさせていただきます。</p>
66			<p>ご意見を聞いて頂ける機会を作ってくださいありがとうございます。</p> <p>中学生の重たい鞆について、意見致します。毎日12キロ程ある鞆をかついでの通学は、子どもの成長や身体的に問題があるような気が致します。</p> <p>我が子は背が低く、細いので、特に体の負担が大きく感じます。もちろん、体力をつけるためとか、忘れ物をしないと、紛失等の管理面から置き勉ができないのかもしれません、それ以上に体のへのダメージが大きいと思います。それが原因かは分かりませんが、この若さでヘルニアと診断されました。とてもショックで、原因は何だったのか、なぜヘルニアになったのか、どこを気を付ければ防げたのか、いろいろ考えると、重たい鞆ではないか？くらいしか思い当たりません。肩凝りは酷いですし、肩には鞆の跡が残り皮膚が擦れて赤くなっていますし、これで、勉強や部活に支障が出ないわけではないと思います。先生方は実際に12キロの鞆をかついで、登校されていませんので、本当にキツイ学生のことは理解できていないと思います。教科書も昔と比べて、大きく分厚くなっていますし、教材が増えています。重たい鞆をかついで登下校して、体力や忍耐力はつくかもしれませんが、そうなる前に、体が壊れてしまうと思います。特に最近の子どもは、野山を駆け巡っているわけではないですし、ゲームで遊ぶくらいだと思うので、昔と比べて体力は落ちていると思います。</p> <p>今の時代にあった教育方針を切に願い、ご意見させて頂きました。</p> <p>置き勉して、失くしたとか盗まれたとか、トラブルもあるかもしれませんが、そういうトラブルも皆で考え解決していくのが学校だと思います。トラブルを未然に防いで、先回りして回避して社会に出ても、人間関係でつまづかないかな？と思います。</p> <p>勉強以外の学びが学校にたくさんあるなか、最近では、成績、内申点ばかりが意識にのぼり、子どもたちはストレスを感じやすい時代だと思います。</p> <p>本題からそれてしまいましたが、鞆の中身を10キロを越えないような対策を宜しく願い致します。</p> <p>未来の大切な子どもたちのことをどうぞ宜しくお願い申し上げます。</p>	<p>いただいたご意見の内容については、今後の学校運営のあり方の検討にあたり、参考とさせていただきます。</p>